

# Q 高齢化社会に対応する

## 歩行浴温水プールの建設計画は

### A 健康の維持改善への対応策を検討



伊山 正木議員

予想以上に進行する少子化減少を背景に、急激な高齢化社会を迎えようとしている。現在5人の働き手で1人の高齢者をささえているが平成37年には2人で1人を支えると予測されている。本町の年齢別人口構成を見ても同じ傾向にある。今回の介護保険法改正案の中で「要支援、要介護1が大幅に増加、かつ軽度者に対するサービスが状態の改善につながっていない。この方々に対

する地域支援事業を市町村が実施する。」との文言があり重要な問題提起と受け止めている。

本町では生涯現役・元気な高齢者をキヤッチアップに様々な活動が開かれ、高齢者の健康維持に効果が表われているが、更に元気な高齢者の多い町を築くため、軽い介護度の方々の改善をはかるための歩行浴用温水プールの建設を進める考えはないか。

#### 実現の方法を探る

#### 町長

温水プールは、水の浮力が体重を支えるので地上では苦痛が伴う身体

動きも楽になる。水圧が全身の筋肉に柔らかな抵抗となり、意識的に筋力を使わなくても適度な刺激が得られるなどの特徴があり、温水プールを利用した歩行は高齢者の健康の維持増進に効果がある。施設整備については、現在計画はないが、今後どのような方法で実現できるか探っていく。

動きも楽になる。水圧が全身の筋肉に柔らかな抵抗となり、意識的に筋力を使わなくても適度な刺激が得られるなどの特徴があり、温水プールを利用した歩行は高齢者の健康の維持増進に効果がある。施設整備については、現在計画はないが、今後どのような方法で実現できるか探っていく。

#### ホームヘルパーの育成確保は

#### 伊山議員

欧米では高齢者の自立性や社会性を維持向上させるため、寝たきりにさせない事に重点を置いた在宅福祉サービスの整備

#### 町での実施は考えてない

#### 町長

が早くから進められている。本町でも小地域ネットワーク活動・在宅福祉サービスの企画、実施などを促進し、その中で地域福祉の担い手としてホームヘルパーの育成・確保に力を入れ、自立性や社会性を維持向上させる必要があるのではないか。

町内外の12の介護事業所と本町社会福祉協議会が2級・1級の有資格者をホームヘルパーとして13名登録、職員5人を含

め要支援・要介護認定者の訪問介護を行っている。来るべき超高齢社会に必要な認識しているがホームヘルパー育成は町として実施せず、訪問介護養成研修施設として、県の指定を受けた事業所での講習が望ましい。



▲県民健康プラザ健康増進センター内の多目的施設温泉にある歩行浴プール(鹿屋市札元)